

# 和地ひとみレポート No.134

平成25年度決算特別委員会終了。賛成多数で決算は認定。

## 予算立てをした、年度当初の方向性の達成度合いは



### ■平成25年度決算特別委員会

…9月2日から開催されていたH26年東大和市議会第3回定例会の会期中、平成25年度決算について審議する決算特別委員会が開催されました。

…現在、東大和市議会では、予算・決算特別委員会の効率化、ならびに充実を図るべく、様々な運営方法を試行しています。従来は議員全員が特別委員になって行われる決算特別委員会ですが、今回は議会選出の監査委員と議長についてはオブザーバーとし、また、質問方法についてもルールを変更。従来は、各款（大きな分類）ごとに各自2回まで時間制限なしで発言（質問）をして良いこととされていましたが、決算に対する質疑を超越した内容になる場合も見受けられたため、今回は各会派（無所属の場合は各自）に総括質疑、各款に対する時間が割り当てられ、その中で質疑答弁を行うという方法で実施されました。今回の方法の検証は後日行われますが、私の感想としては「時間配分がされている＝最大の時間が読めることにより、終了時間が分かる」ことによる効率化のメリットはあるかもしれませんが、各会派ごとに質疑を行っていくため、他の会派に所属する人が質問した同じ項目について、もっと深掘りしたいと思った際、すぐに発言ができないというデメリットがあるように感じました。

…3日間の特別委員会で審議が行われたあと、25年度の一般会計ならびに5特別会計の決算については賛成多数で認定されました。決算の内容は市報並びに市のホームページでも発表されますが、ここでは、他自治体が行っている『市民目線での決算報告』を参考に、私が作成した概要を報告させていただきます。

（裏面を参照ください）

### ■決算の内容は

…平成25年度の決算は予算現額477億3,671万5,000円に対し、決算総額は475億525万6,923万円となり、対予算対し収入率は99.5%（前年度99.8%）となりました。一方で歳出は予算現額477億3,671万5,000円に対し、決算総額は458億234万3,521円となり、対予算執行率は95.9%（前年度96.3%）となりました。予算に対して歳入は達成率が落ちたように見え、歳出（執行）についても抑えられたように見えますが、決算総額はアップ。前年度と比較し歳入は1.1%増加で額にしてプラス5億661万8,931円、歳出は1.0%増加で額にして4億5,862万8,546円アップとなっています。…一般会計の歳入の基本となる『市税』の収入済額は約121億800万円前で前年度より400万円の増額となりました。その内訳は、市民税個人は人口が増加したこ

とと、収納率が上がったことをうけ、約2083万円の増額でしたが、市民税法人については、法人実行税率の引き下げ等の影響により約7,600万円の減額となっています。

…都内でも下位の「教育費」については、図書館、公民館などの社会教育費も含んだ全体では昨年度より約6億円減額。この主な原因は小・中学校の体育館、校舎の耐震補強工事が完了したことで、その費用約7億が全額減額となったことがあげられます。小学校費と中学校費については工事費に該当する「環境整備費」の影響を考えなければ昨年より小学校は約3,400万円、中学校は約1,600万円の増額という結果になりました。それでも、まだまだ都内全体と比較すると教育費は低い方ですが、少し改善の兆しが見えました。

### ■予算立て当初の市の方向性との比較は

…決算の数字の大もとは、予算です。そして、その年度予算を作る際の大きな方向性は「平成25年度市長施政方針」で示され、その方針を反映して予算は立てられます。言い換えれば、施政方針を実現化するための「金銭面」を支えているのが予算であり、その結果を「金額」で示し、結果説明をするのが決算だと思えます。平成25年度の市長施政方針には「市を全国にPR」「これぞ東大和！という地域ブランドの確立を目指す」「東大和市の魅力をPRする」「観光資源についても宣伝をする」など、観光にまつわる発言が多数ありました。一方で、今回の決算に対する市長による市政報告では、主な事業でも観光施策には触れられてなく、当初の方向性の結果が説明されていない印象を持ちました。いわゆる行政が行わなければならないことについては「東大和市実施計画」に基づいて概ね達成されていますが、施政方針で示された「市長のもとでの新たな方向性」についての結果は不明瞭だったため、「H25年度1年間の中で市の方向性に何か変化があったのか」と決算特別委員会の総括質疑において質疑しました。答弁では、施政方針の中で観光にまつわることを方針としたことについては、様々な事業で取り組んでいるとのことでしたが、やはり1度もその点について触れられないことに少し違和感が残ったため、予算についてはその方針を説明されたうえで、議会でも可決をしたのだから、今後は予算時の方針の結果がどのようになったのかという形で決算報告はして欲しいと要望しました。

## ■平成 25 年度決算に伴う市長からの市政報告より（趣旨）

平成 25 年度は、国の経済対策により景気が緩やかに回復する中、市財政の健全性の維持に努めつつ、諸課題への取り組みを着実に進めてきた。歳入では「第 4 次行政改革大綱」で掲げたコンビニエンスストア納付に加え、差押動産のインターネット公売等の収納対策に取り組み、市税収入については、総額で予算額を上回り、前年度と同水準の決算額となった。歳出については「住みよい、元気あるまちづくり」、「福祉の行き渡ったまちづくり」等を推進し、市民サービスの充実を図るとともに、積極的に東大和市の魅力を内外に発信してきた。

平成 25 年度決算における財政指標は、財政健全化法に基づく各比率については、引き続き健全性が保たれた内容となり、経常収支比率（※市が必ず支出しなければならない経費。人件費、生活保護などの扶助費、借金した分を返済する公債費などの率）についても、扶助費等の増加はあったものの、公債費が減少したことにより、平成 24 年度との比較において数値は改善された。市財政については、決算数値の状況や積立基金の増加等により、全体的に健全性が維持されていると認識するところだが、扶助費等の社会保障関係経費は今後も増加が見込まれ、新たな課題に対応するための財源確保においては、非常に厳しい状況になることも考えられる。私としては、引き続き行政改革の取り組みを着実に実行し、持続性のある行財政運営の定着に努めるとともに開かれた市政を推進し、市の活性化と市民サービスの向上を図って参りたいと考えている。

## ■平成 25 年度決算

※万単位 ※（ ）内は前年度比

	【歳入≒収入】	【歳出≒支出】	
全会計	475 億 525 万円 (1.1%増)	458 億 234 万円 (1.0%増)	
一般会計	295 億 73 万円 (0.9%増)	281 億 5344 万円 (0.4%増)	教育、福祉、医療、道路や公園の整備など、市の基本的なサービスを行う会計
特別会計	180 億 452 万円 (1.4%増)	176 億 4890 万円 (1.9%増)	国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療、土地の区画整理、下水道事業の一般会計と区別する必要がある会計

## ■平成 25 年度一般会計歳入(≒収入)について

市税	121 億 765 万円	41.0%
使用料・手数料など	2 億 3796 万円	0.8%
繰入金	4 億 3745 万円	1.5%
国・都支出金・地方交付税など	127 億 6651 万円	43.3%
市債	18 億 9422 万円	6.4%
その他	20 億 6505 万円	7.0%
合計	295 億 73 万円	100.0%

⇒ 500 万円の家計に置き換えると

給料	¥2,050,000
パート収入	¥40,000
貯金の切り崩し	¥75,000
親からの援助	¥2,165,000
借入金	¥320,000
その他、財産売り払い、利子収入等	¥350,000
合計	¥5,000,000

## ■平成 25 年度一般会計歳出(≒支出)について

人件費	給料など人にかかる経費	42 億 7353 万円	15.2%
扶助費	福祉や医療などにかかる経費	96 億 3564 万円	34.3%
公債費	借金の返済にかかる経費	16 億 6703 万円	6.0%
投資的経費	施設や後援・道路の整備にかかる経費	15 億 2344 万円	5.4%
物件費	光熱水費や消耗品などにかかる経費	36 億 2995 万円	12.9%
繰出金	特別会計へ支出する経費	30 億 8631 万円	11.0%
積立金	貯金	11 億 9076 万円	4.3%
その他	その他	30 億 6942 万円	10.9%
合計		280 億 7608 万円	100.0%

一般会計の 市民一人 あたりの 歳出は ¥328,829	¥49,982
※H26 年 4月1日の 住民基本台帳 人口 85,382人	¥112,788
	¥19,730
	¥17,757
	¥42,419
	¥36,171
	¥14,140
	¥35,842
	¥329,735

※歳出の性質別状況の数字については『地方財政状況調査』によるもので、そのルールにより7,735万7,000円が控除されています。よって、上記の一般会計の歳出合計額とは数字は一致しません。

## 市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なよう<sup>プロファイル</sup>で知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
 ✉ wachi\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546  
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102